SDGs新聞

アスクル株式会社

「木の畑」って知ってる?

☑ SDGsラジオを読んでみよう!

「紙」が何からできているか知っていますか?そう、「木」からできているんです。

本のおかげで、みなさんはノートや教科書を使えます。でも、紙をたくさんつくると、木がどんどん減ってしまいます。 そこで、いろんな商品をネットで売っている会社「アスクル」は、コピー用紙1箱 (5000枚) が売れると、そのお金の一部で2番の木を「木の畑」に植える活動をしています。

2010年にインドネシアではじまり、これまでに、2億数千万本もの木が植えられました。

 $\hat{\bar{x}}$ 木を植え、育て、 $\hat{\bar{y}}$ つっかって、また植える。そんな「木の畑」のしくみができているんですよ。

では、紙を大切にするために何ができるか?話し合ってみましょう。

☑ SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう!



みなさんが授業で使っている教科書やノート、プリントなどの紙は、主に本からできています。最近ではリサイクルも進んでいて、使い終わった紙を集めてもう一度使う「古紙」などからできている紙もあります。木から紙をつくる場合は、A4サイズのコピー用紙1箱分(5,000枚)をつくるために、原材料となるアカシアやユーカリの木が1本必要と言われています。そこで、いろんな商品をネットで売っている会社「アスクル」は、インドネシアで、ある取り組みを始めました。

がでうさんしょう しんりん こうしきホームヘーシ 画像参照:アカシアの森林イメージ(アスクル公式HPより)



がぞうきんしょう 画像参照:「1 box for 2 trees project」の循環サイクルイメージ画像 (アスクル公式HPより)

「1 box for 2 trees project (1箱に対して2本の木)」というこの取り組みでは、コピー用紙が1箱売れたら、コピー用紙のもとになるアカシアやユーカリなどの木を2本以上植えます。つまり、「使った分よりも多くの木を植えよう」ということです。2010年にスタートしてからこれまでに、2億数千万本以上のアカシアなどの木が「木の畑」に植えられ、コピー用紙へと生まれ変わっています。「木を植えて、育てて、切って使って、また植える」。アスクルはこれからも、「1 box for 2 trees project」を通じて、木を大切にする取り組みを続けていきます。

マキーワード

アカシア

かっき マメ科の木で、あたたかい地域に多く生えています。成長が早く、紙のもとになる木としてよく使われています。

ユーカリ

インドネシア

とうなん みなみ ほう やく しま また くに せかい ばんめ じんこう おお くに 東南アジアの南の方の、約17,500の島でできている国です。人口はおよそ2億7,000万人で、世界で4番目に人口が多い国です。

☑ 対象ゴール





みなさんにできること!

織のムダづかいを減らすために、なにができるか考えてみましょう。

おさらい

- A4のコピー用紙5,000枚をつくるには、アカシアなどの木が1本必要。
- アスクルは、インドネシアでアカシアなどの木を植える活動を行っている。
- ●「木の畑」で育った木を切って紙をつくり、また新しい木を植えている。

X	Ŧ

